広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催日時 | 令和６年10月21日（月）  12時30分～13時45分 | | 開催場所 | 会議室（対面＆オンライン） |
| 出席委員 | 人数：７人  委員氏名（役職）  谷川　正芳氏（大崎上島町長）  森下　秀月氏（大崎上島商工会　事務局長）  坪谷ニュウエル郁子氏（東京インターナショナルスクール　理事長）  田頭　𠮷一氏（国立大学法人 長崎大学 事務局長・理事）※オンライン  草原　和博氏（広島大学大学院教育学研究科　教授）  福嶋　一彦（広島叡智学園中学校・高等学校　校長） | | | |
| 会議の  概要 | 〇　令和６年度自己評価シート（中間評価）に基づく上半期の取組の説明  本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、進路指導、寮生活など、本校の令和６年度上半期の取組について説明を行った。  ○　各委員からの発言  （御意見）  　・寮生活の評価基準について、生徒対象のアンケートだけでは客観性を担保できない可能性がある。  　・寮施設の清掃については、生徒が掃除の時間等で清掃するだけではなく、外部リソースを活用することも検討すると良い。生徒に対して施設をさらにきれいに清掃するよう指導することは、生徒の自立心を育む上では逆効果となる可能性もある。  　・寮のアクティビティをさらに充実させられるように取り組んでほしい。卒業後、生徒たちの思い出に残るのは、寮のアクティビティである。外国人留学生を含む多様性を生かしたイベントや、地域と連携したイベントなど、たくさん良い素材があるため、それらを生かしてほしい。  　・DPスコアの世界平均は約29点であるなか、予想スコアの平均点が大きく上回っていることは、非常に優秀であり、本校の教育活動の成果が現れている。  ・様々な海外研修プログラムを実施しているが、当該プログラムに参加した生徒の変化（モチベーションや英語力等）について調査し、データを蓄積しておくこと。  ・司書を中心に図書機能をさらに充実させることで、英語学習だけではなく、日本語の奥深さやリーダーとしての素養を涵養できるように取り組めると良い。  ・進路指導に関する評価指標（世界ランキング100位以内の大学への合格者数）を変更する必要があるのではないか。アートやエンジニアの道を志す生徒など、必ずしも世界トップの大学を目指す生徒ばかりではないはず。  （御質問）  ・寮の部屋割はどのように行っているのか。  　→中学生と高校生でユニットを分けている。また、中１〜２及び高１〜２は２人部屋、中３及び高３は個室となるよう調整している。  以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。  本校としては，委員からの御意見等を今年度下半期の学校運営に活かしていく所存である。 | | | |
| 次回開催予定日 | | 令和７年２月３日（月） | | |